



アフターコロナの繫多川公民館を考える 地域円卓会議

コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繫多川公民館のあり方を住民と考える

実施報告書

開催日時： 2021 年 5 月 23 日（日）10:00-12:30

開催方法： オンライン会議システム（zoom）

主 催： NPO 法人 1 万人井戸端会議

共 催： 那覇市繫多川公民館 繫多川公民館利用団体連絡会

協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく

ACTIVITY REPORT

【報告】アフターコロナの繁多川公民館を考える地域円卓会議



- 開催日時：2021年5月23日（日）10:00-12:30
- 開催方法：オンライン会議システム（zoom）
- 着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 参加者数：42名（企業、行政、福祉・医療機関等）

- 主催：NPO法人1万人井戸端会議
- 共催：那覇市繁多川公民館、繁多川公民館利用団体連絡会
- 協力：公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく
- 問合せ：NPO法人まちなか研究所わくわく

論点提供

南 信乃介 氏

（NPO法人1万人井戸端会議 代表理事・那覇市繁多川公民館 館長）

コロナ禍のような地域の危機にも対応できる

繁多川公民館のあり方を住民と考える

今回の地域円卓会議では、コロナ禍を体験し繁多川の地域にはどんなことが起こったのか、そして地域はどのように対応し何ができて何ができなかったのかを確認しながら、繁多川公民館という拠点の役割を皆様の声を聞きながら再定義することを目標としています。

センターメンバー



南 信乃介

NPO法人1万人井戸端会議
代表理事
那覇市繁多川公民館 館長



續 洋子

NPO法人1万人井戸端会議
副代表・事務局長



金城 芳秀

沖縄県立看護大学
教授



宮城 潤

那覇市若狭公民館
館長



比嘉 美矢子

那覇市包括支援センター繁多川
地域支援推進員



具志 のぞみ

繁多川
すぐりむん



久場 祐介

那覇市教育委員会
生涯学習課



➤ 地域円卓会議の動画記録

・公開日：2021年5月27日（限定公開）

・URL：<https://youtu.be/OMdH1xJkhgU>



・公開日：2021年5月27日（限定公開）

・URL：<https://youtu.be/saOdCFkA2uk>

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) つながりが強いが小さくコミュニティは、同質性高く、居心地は良いが他者を受け入れにくい。そこに公民館が関与し、コミュニティの価値を高め、場を開いていくことでちがうコミュニティ同士がつながりやすくなる。ちゃんと評価し、顕在化し共有する、そこに公民館の役割がある
- 2) 弱いつながりをつくっている、誘発している、知っていることを公民館の機能として再定義する。見えにくかったところを自分や他者で評価し、那覇市と合意すると次のバージョン見えるのでは
- 3) 公民館が社会教育施設としての位置づけを学ぶことで更新していく、今ないものを生み出していくはみ出し方を公民館スタッフも意識しないとイケない。地域の方と日々向き合いながら、新しいものが生まれ、うまれたものはだれかのきっかけになる可能性もあり重要

■参加者によるサブセッション

コロナ禍のような地域の危機にも対応できる

繁多川公民館のあり方を住民と考える

(参加者記載の原文、発表内容を記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②…と記載)

- ① ・繁多川の出身。区域として広いと考えている。高齢者が多く、情報支援などのケアが必要。今回のコロナ禍で学んだことを活かす必要あり。特に人が集まらない時に弱者に届け方を考えていくことが必要。ITの利活用の鍵、しくみをつくる。困りごとをキャッチする
- ・南さんには授業で看護学生に繁多川の活動を紹介している。毎回、レベルアップしている。学生には問題×問題＝すぐりむん方式を身に着けるようになってほしい。出来ない状態から出来ることを生み出す
 - ・繁多川自治会地域連携を図っている。人と触れ合うとまどいがある。自治会として何が正解かみえない状態にある。自治会の加入率が低い。コロナ禍で行事が中止になっている。昨年の経験を活かしていく。ちょっと一歩でも。ICTの利活用
 - ・すぐりむん化がさらに進んでいくと良い
 - ・例えば行政とつながるときに、リーダーがいれば、いい方向に進むことができるのではないか
- ② ・自己管理専門の立場から
- 心身のコントロールを持っているコロナでも影響は無い
 - 地域の関わりとしてリモートでどうように他の人と繋げていけるかが難しい
 - ・繁多川公民館の活動は心配ない。今の活動を継続していけば良い。(ネガティブ発言がない、大きなことを語らないのが良い)
 - ・自分の地域に比べ、繁多川公民館の活動は活発で羨ましい
- ・お便り、電話、FAX、テレビ(デジタル放送)での発信を続けて欲しい
 - ・コロナ禍での個人の取り組みとして24時間のスケジュール(例)を作って行動すると良い
- ③ ・山形も感染者増。なぜ感染者が広がるか勉強会開催。子どもから高齢者まで。ルールの確認。公民館をという拠点を核として生活支援機能集約。世帯当たり必要な方には5万円づつ。3自治会を一組で活動サポート5万円づつ。隣組単位、校区の役割での対策会議。7,8割は地域活動の継続が可能だった。住民自ら対策を考え実践、それをきりりは支援。伝えたい人に伝える、伝わっているか
- ・一斉休校時は大変だったが、経験も重ねて一律休止や自粛だけではないだろう。行政が全体でどうかと考えるが、地域に根差した課題がある。公民館には役割がありそう。学び合いを
 - ・若狭地域一体で活動している。児童館も利用制限あった。閉館中でも必要な子には地域の子どもの受け入れもあった。家での充実した遊びの提供をするため広報工夫。母子家庭、父子家庭、中学生の居場所も重要では。児童館は小学生までを優先した。公民館とも協力体制で
 - ・公民館、コロナ過での学び合いとは。住民同士の話し合いがベースでは。協議と実行。それが役割
- ④ ・シェアマーケットキャラバン

・包括、福祉作業所、NPO ロービジョン、児童館、老人福祉センター、公民館など居場所を提供している方へ聞き取り作業をしている。対象者でやっていること困っていることは違う。知らないことが多い事に気づいた。困ったことが繋がる機会になる。ジャンルを超えた繋がり。発信が必要

・公民館は高齢者から若者まで集いやすい場所。コロナの影響で老人センターが閉館。公民館が中心。高齢者は億劫がる。高齢者の交流を促す「スマホ講座」を予定。勉強チャレンジ！

- ・LINE 含めた繋がりをもっと必要
- ・課題の解決は「繋がり」。平時の繋がりが必要
- ・何もなくても利用、行くことができた方がいいな

⑤ 繁多川公民館に期待すること

- ・コミュニティのすごさを感じる。繁多川公民館がとても大きな役割を持っているが、学校は地域のコミュニティの核になるはずなので、学校との関わりを、行事だけでなくつながっていけることを期待したい。学校の力が弱い
- ・ジュニアボランティアの子が少なくなっている気がする。子ども達も地域に参加できるための仲介役を公民館が担えると思う
- ・内地では、大人の世界と子どもの世界の区切りがあると感じたが、沖縄は曖昧な感じがする。うまく説明できないが、メリハリがある所が、沖縄にはない感じがした。その様な価値観の気づきや学びも期待したい
- ・社会教育は新しい価値観を更新する。それをぜひ地域に広げていくことを期待したい。学校の先生も価値観が変わらない。そこを、公民館が価値観の更新に役立ってく

れたら。(教育委員会の問題はあるけど、そこまでいってほしいよね～！)

⑥ ・コロナ禍においての繁多川地域の自治会の対応

- 自治会は高齢者が多く、対面での取り組みが多いので、なかなか活動がしづらい
→つながり方を考える必要があると感じている
→実際には、Facebook やライブ配信などを取り組んだ
- 対面での取り組みの必要性も感じている

・繁多川公民館は、他の公民館には見られない取り組みをしている。全国の多くの公民館が「コロナが終わるまで待っていよう」という待ちのような状態で、「もしコロナにかかったらどうするの」という、自粛ムードのなかで、公民館は不要不急であるという意識もあって、なかなか繁多川のような、前のめりの新しいことはなかなかできていない

- ・大学に学生が来られない状況。オンラインでの大人数の学びのメリットもあるが、会って対面しての学びに価値を感じることが多い
- ・まだ繁多川公民館で取り組みが難しい

⑦ 屋外でできること (例：グランドゴルフ) 以外で、何か取り組みできることはないか？

- ペタンクはどうか
- ・小さなつながり (地域の中の小さなコミュニティ) を作っていくことっていいな。
- 屋内で難しいなら、屋外など、関わりやすいコンテンツがあれば良い

- ・休館するだけでなく、新たな取り組みをしたことが、今後につながると思う
- ・皆さんの声を聞いて実現させたのが良かったと思う
- ・オンライン開催などチャレンジしている

- ⑧
- ・コロナ禍において、家から出られない子供たち、親子。エネルギーがあっても、いいところを伸ばしてあげる機会がない。一方、親も子供を遊ばせる場所がなくて困っている。親の人手はありそうなので、例えばオセロ大会や科学実験教室などを、公民館が中心になってくれるとお手伝いできそう。むしろ、ビフォーコロナよりも発展できるのではないか
 - ・コロナ禍だからこそ、人とのつながりが大切
 - ・地域の公民館とこいのぼりの掲揚式。室内に集めるのが難しい。人が集まるのが難しい
 - ・誰とも一日話さない日があるとおっしゃる利用者さんがいる。できるだけいろんな人に声をかけるようにした
 - ・小さなつながりを増やしていく
 - ・緊急事態宣言が出たとしても、感染対策をしながら継続できる活動と、さらに手厚く感染対策を手厚くして継続できる活動、本当に中止しなければいけない活動を区別していける時期に入ったのでは
 - ・消毒・体温測定のを機会をきちんと設けるなど

- ⑨
- ・若狭と繁多川の違いが面白い。何をしたらいいか悩む、考える、共通しているだろう課題を共有できてよかった
 - ・デイサービスで子ども食堂。引きこもり>筋力が衰える、廃用。コミュニケーション

ンの不足やリズムが狂うなどの問題を感じる

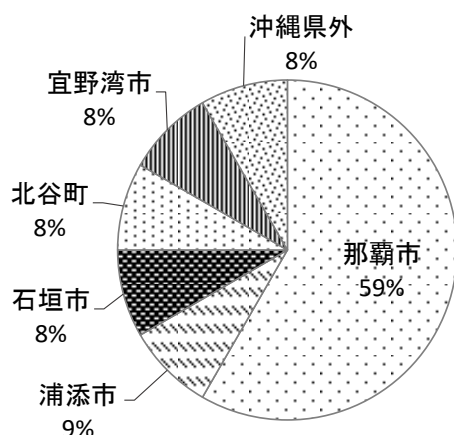
- ・長期休館で来館減っている中で、活動していることがすごい。北谷よりも活動している印象。繁多川では学童が連携している
- ・デイサービスで感染者は出ていない。緊急事態宣言でも継続予定。自主的に休む人は少ない。活動内容はカラオケは休止するなど変更している。生活リズムが整うだけでもメリットがある
- ・大学では半分オンライン、半分授業。去年入学したので、知り合いが少ない。ちょっとしたことで情報交換することができないのがつらい。公民館などの拠点で、学生同士がつながることができたら嬉しい
- ・公民館は休館になる可能性があるが、事前に状況を想定して、もし休館してもできることや継続したいことを共有している

アフターコロナの繁多川公民館を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

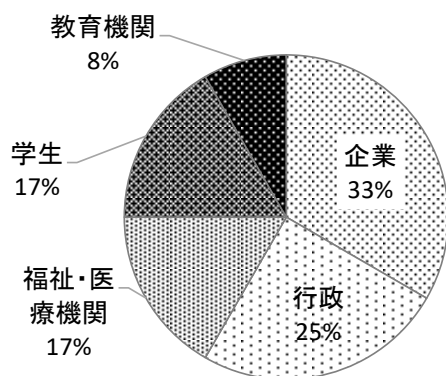
◆概要

- ・開催日時：2021年5月23日（日）10:00-12:30
- ・開催場所：オンライン会議システム（zoom）
- ・着席者：9名（司会、記録者含む）
- ・参加者：42名（アンケート回収12名、回収率28%）

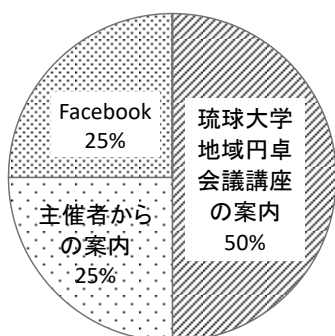
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.7（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
10名	1名	0名	1名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ これからの公民館との共同事業のヒントになりそうです
- ・ コロナ禍でも地域と繋がるアイデアを知りたかったので受講させていただきました
- ・ 地域円卓会議に初めて参加した。地元繁多川の話でもあり興味があった
- ・ 繁多川公民館だけでなく、若狭公民館の活動（一部かと思いますが）を知ることができました。あちらこちらに小さなつながりが発生する（仕掛ける）ことが重要だと思いました！ありがとうございました
- ・ ステークホルダーがコロナ禍の中どういう視点でどういった活動をされているのか知れて、大変参考になった。緊急事態宣言下の対応として、ZOOMのオープン形式にしてくださいありがとうございます
- ・ 学童や地域のすぐりむんの方々、公民館や支援センターなどの繋がりや活動、抱えている問題などが明確に知れたこと
- ・ 地域円卓会議の実際を見ることができただけでなく、繁多川の実際の取り組みやアイデア、思いや姿勢からとても学ぶことができたし、自分の地域ごととしても考えるきっかけになり、参加してよかったと思っています
- ・ 初めて円卓会議に参加をさせて頂き、どのような形で会議が進められていくのかなどを学ぶことができ、とても有意義でした。ありがとうございました。また、繁多川公民館の取り組みや、様々な方のお話を聞く

ことができたこともとても勉強になりました。ありがとうございます

- ・ 繁多川公民館の取り組み内容が良かった事と、キャストの方々のお話された内容でも学ぶ事が多かったからです
- ・ 地域づくりの参考になった、懐かしい皆さんに画面越しにお会いできた

(4. 概ね満足)

- ・ 繁多川公民館の役割について再認識できたこと。内輪だけでなく、教育委員会など各関係者がしっかり参加されていること

(2. あまり満足してない)

- ・ オンライン講義と比べて進行に違和感がありました。参加の方の慣れの問題だと思います

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 弱いつながり
- ・ 屋外でのテイクアウト喫茶や、地域まわりは参考になりました
- ・ 自分に見えている子どもたちだけでなく、高齢者や30-40代にも目を向ける必要があることがわかった。「弱い繋がり」も新しい視点でした
- ・ 弱いつながり、をいかに創るか、ということと、すぐりむんの活用、が地域支援のカギになるなど学ぶことができた
- ・ 「ゆるやかにつながる」を再認識致しました。アフターコロナはそこを目指したい！
- ・ 拾えていない、見えていないところもあるという視点・意識を持つことは非常に重要と感じた。やはり見えているところから考えがちなため、拾えていない層はどこか？という感覚を持ちたい
- ・ 強い繋がりよりはよわい繋がり、ゆっくりとした関係、入りやすく抜けやすい関係、確かにそうだなと思いました

- ・ すぐりむんの考え方と取り組み、小さな繋がりを作っていくこと、ポジデビ、学びが社会の基盤である、介護サービスを繋げる
- ・ 繋がるだけでなく、地域のなかでの関わり合いや地域での暮らし方に目を向けること、認知症発症しても支えられる地域づくり、公民館の場の活用と情報の出し方、指定管理だけでなく直営でもできること、学童は家庭と学校の繋ぎ目
- ・ 「小さなつながり」から自治会加入率やつながりを広げていくというアイデアがとても良いと思い、印象に残りました。強制的に加入を迫るのではなく、趣味などのつながりから大きくすることがとても大切だと共感しました。また、具志さんの「(コロナ禍において) 困っている人が余計見えなくなっている」というお話も印象に残りました。コロナ禍で、人とのつながりが更に希薄化していく中で、自治会に参加する人を増やしていくことが課題だと考えました。また、高齢者の健康問題や認知症の問題ともコロナ禍の外出自粛は深く関わっていることを知り、アフターコロナにおいても公民館が核となり、高齢者の居場所づくり、健康維持になることが重要だと考えました
- ・ 問題×問題＝すぐりむん
- ・ 課題の見える化と行動できるコミュニティ
- ・ 連携、協働の中で実感しながら共有しすすめていくこと
- ・ 学びあい、認め合いながら社会教育を促す
- ・ Google スライドの使い方、様々な属性の集め方、配信の仕方(撮影機材)

<板書記録>

アフターコロナの 繫多川公民館を考える 地域円卓会議

テーマ コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繫多川公民館のあり方を住民と考える

2021年5月23日（日）10:00-12:30 @公益財団法人みらいファンド沖縄

主催 NPO法人1万人井戸端会議
共催 那覇市繫多川公民館・繫多川公民館利用団体連絡会
協力 公益財団法人みらいファンド沖縄・NPO法人まちなか研究所わくわく

地域の困り事を
社会課題として
共有・共感する場

95 回目

2021.5.23 (日)
10:00 ~ 12:40



2021.5.23 電話 /

比嘉美矢子
(那覇市地域包括支援
センター繫多川)

南信乃介
(NPO法人1万人井戸端会議)

〈司会〉平良斗星
(みらいファンド沖縄)

〈記録〉宮道孝一
(まちなか研究所わくわく)

ZOOM参加



續洋子
(NPO法人1万人井戸端会議)



金城芳秀
(沖縄県立看護大学 教授)



宮城潤
(那覇市若狭公民館 館長)



具志のぞみ
(繫多川すくもん)



久場祐介
(那覇市教育委員会
生涯学習課)

論点提供

南信乃介 さん

コロナ禍のような地域の危機にも対応できる 繫多川公民館のあり方を住民と考える

那覇市立公民館 7 館 のうちの 1 つ
エリア人口 10 万人

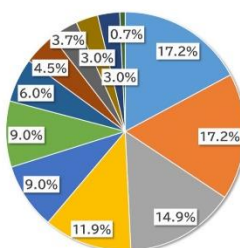
コロナ禍、繫多川地域に起こったこと

繫多川公民館休館 2020年3月～2021年3月1日
3回計 142日間
令和2年度 公民館利用者減 (54,278人→20,748人)

その他、休館になったことのある施設
匿名老人福祉センター

活動自粛した事のあるところ
民生委員児童委員、包括支援センター認知症カフェ一般利用・訪問の一部、
青少年育成連絡協議会、就労支援センター、障がい者自立支援センター等、
自治会デイサービス

外出自粛要請が出ていた期間、困っていたことを教えてください



活動	割合
運動	17.2%
お付き合い	17.2%
健康	14.9%
感染予防	11.9%
買い物	9.0%
地域活動	9.0%
通院	6.0%
趣味	4.5%
仕事	3.7%
お金	3.0%
介護	3.0%
その他	0.7%

那覇市地域包括支援センター繫多川

福祉・地域自治活動の縮小

いつものあのひと
会える

こんなにも求め
られていた

健康づくり

誰かとなごできる

生活リズム

ストレス・孤立

小学生 / 中高生

障がいがある方

働く世代 / 高齢者

2021.5.23 電話 2

コロナ禍での公民館運営 実際

・閉館中 コロナ号外発行 7回発行
だれがどう届けるべき？
自治活動との連携 掲示板張り出し

・自治会長とのLINEネット
ワークづくり

・公民館利用団体へのはがき
開館ウェルカムメッセージに加えて
地域リーダーとして旧盆への対策を呼び掛け

・感染症内科医師 高山医師オンライン勉強会



豊かな価値観を創出する
すぐりむん

問題 × 問題 = すぐりむん

コロナ禍で外出自粛 × 学校休校 = すぐりむん 家族でご飯づくり

コロナ禍で外出自粛 × 運動不足 = すぐりむん発信 地域まーい

感染リスクがあり飲食できない × 集えない = 屋外でのテイクアウト喫茶

新しい生活文化は、私たちの手で。
社会教育活動で支え支えられている皆さんと共に。



コロナ禍での支え合い 普段の地域資源が活きた



20・30・40代 てつながって いなかった
気づき

子育て世代の居場所



チャレンジ

「コロナ禍の子ども地支援者地域円卓会議」2021.4.9
コロナ禍の孤立により、低年齢ほど後々の成長に影響が大きくなるかもしれない。

2021.5.23 電話 3

コロナ禍での公民館運営 実際

公民館 × 包括支援センター

・ オンライン動画

ちむぐくるに乾杯

<https://www.youtube.com/watch?v=zwMh-6qpHMQ>
ちむぐくるに乾杯 第1回 宇指定文化財 - YouTube



2020.08.11 琉球新報



琉大
工業高校
ロビーの
リバーション
換気

新型コロナウイルス対応緊急支援助成

「課題の見える化と行動できるコミュニティへ」

期間: 2021年11月～2021年5月

子どもから高齢者、障がい者までの見えなくなった課題をキャッチし、行動できるコミュニティネットワーク構築を試行する。



映画
上映会



若手会



夕での
あげものきさ

100とチャレンジ
協力しなくて課題みえてこない
社会教育 → 認めあ
学びあう

コロナ禍での実践に意識したこと

連携・協働は、必要に応じて、
その実感を共有しながら進めるもの。

社会教育の得意とする学び合い、認め合う
姿勢がこれを促す。

地域課題を解決したい様々な政策
地域運営組織、地域包括ケアシステム、地域共生社会
スクールコミュニティ等

どれも＜学び＞を基盤としないと機能し
ない。＜学び＞が社会の基盤となる

東京大学大学院牧野篤氏

私達が学びを与えるのではなく
学びを誘発する場や出会いを

2021.5.23 電話 4

何ができている？

- ・集いに来ない人、来れない人へのフォロー
- ・学校での地域学習(調理を伴う)
- ・世代間交流ものづくり等
- ・飲食を伴う交流 もちつき・豆腐づくり
- ・地域の基盤を支える集まりが減少 代替が難しい？
- ・若者の力を真ん中に持っていかなければ
- ・「公民館があるから私たちは元気でいられる」
人のつながりで新しい価値感を創出する社会
教育の自覚と実践
- ・コロナ感染者は完全には防げない。対応も学び続ける地域とは
- ・地域の孤立を防ぎ、セーフティネットとして機能するネットワーク(拠点も訪問も)

2021.5.23 電話 5



瀬 洋子 さん

4・5月休校 → 学童 あけてくれ
(行政)
スタッフの安全
定員 30名

親のストレスや食事
虐待などの心配

お便り配付した(スタッフ紹介・目標)

- ・つながりつづけたい
- ・子どもたちの状況もハコク
- ・放課後の安心・安全な居場所
↳ + 皆がつどい・学びあう(社会教育)
いつでも・誰でも 先生・生徒



コロナ禍
体力が
落ちている

エネルギーは
もてあましている



比 嘉 美 矢 子 さん

那覇市地域包括支援センター 繁タリ

那覇市 18ヶ所

1~5月(繁タリ) 3600人対象
2・3月(識名) 何でも相談窓口

元気に公民館通っていたら

自宅ひきこもり

足こし弱くなり、歩いて行けなくなる

↳ 相談増

介ゴ予防へつながり、元の生活へ

コミュニケーション量の減少

今は元気だけど不安という相談も。

認知症 → 介護予防教室

色々な人と会っておしゃべり

社会活動

新しい取り組み

すすめられなくなった

地域でのくらしで
かかわる人と
介ゴの人がつながる

地域の中で

みまもる・
声かけれる人
がまわっている

発症しても
支えられる
地域づくり



具 志 の ぞ み さん

繁タリ すぐりむん

- ・人との接点もつてできなかった
- ・地域もあまり、もりあげ方すごい
でもコロナ禍、行事できない (校長)
- ・困っている人も見えなくなる
↳ 見つける機能
声をあげられな人が声あげられる
ように
- ・子どもたち部活動 今までこおり
させてやれない (経済的理由)

2021.5.23 電話 6



宮城 潤さん

那覇市若狭公民館

NPO法人 地域サポートわかさ

コロナ禍で
見えてきた課題

- ・生活に大きな影響があった人とそうでない人
- ・非常時は社会の弱いところが顕在化する
- ・コミュニティ・つながりの重要性を再確認
- ・つながりの中には、誰がいて誰がいないのか想像力を持って取り組む必要性

第10期中央教育審議会生涯学習分科会
における議論の整理

多様な主体との協働とICTの活用で、
つながる生涯学習・社会教育
～命を守り、誰一人として取り残さない社会の実現～

2021.5.23 電話 7

母子世帯対象食糧支援 (しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄)

コロナ禍において困窮するなど、厳しい状況にある母子世帯を対象とした食糧支援を休館中の若狭公民館玄関前で実施



しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄は、母子世帯向けの乳幼児学費をきっかけに、若狭公民館で毎月一回「おしゃべり会」を開催している

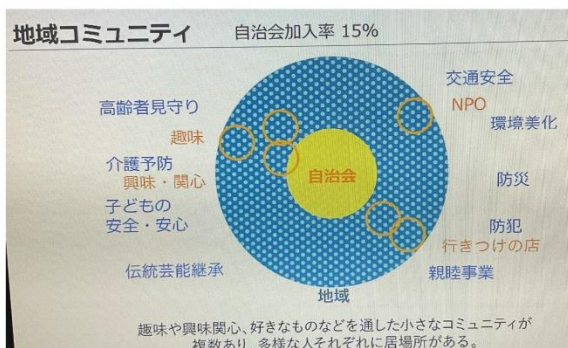
ネパール人留学生対象食糧支援 (沖縄ネパール友好協会)

個人や企業から寄付を募り、留学生約100名に対して1ヶ月分の食料を配布



4年前から多文化共生を目的に交流イベントを共催。ネパールのお正月を祝うイベントや家庭料理教室、防災イベントなどに取り組んでいる

- 当事者(団体)は困っている状況みえる
し公民館は支援につなぐ役割を。
- 平時につながっていないところは課題みえない
つながっていないから課題みえない



何ができていない？

- ・集いに来ない人 来れない人へのフォロー
- ・学校での地域学習(調理を伴う)
- ・世代間交流ものづくり等
- ・飲食を伴う交流 もちつき・豆腐づくり
- ・地域の基盤を支える集まりが減少 代替が難しい？
- ・若者の力を真ん中に持っていかなければ
- ・「公民館があるから私たちは元気でいられる」
人のつながりで新しい価値感を創出する社会
教育の自覚と実践
- ・コロナ感染者は完全には防げない。対応も学び続ける地域とは
- ・地域の孤立を防ぎ、セーフティネットとして機能するネットワーク(拠点も訪問も)

社会教育 新たな出会い、学びあいで
価値観を更新していく

社会基盤
づくり

楽しみながら
79方面につながる

趣味・お店・NPOなど

自治会加入率 15%
課題もは3つすることが難しい

小さいコミュニティで、ゆるやかにつながる
ことがセーフティネット

小さい体験・まなび
つみ重ねる

2021.5.23 電話 8

サブセッション

コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繁多川公民館のあり方をみんなと考える

ブレイクアウトルームを活用し、
小グループで話し合う時間です

**テーマ「コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繁多川公民館のあり方をみんなと考える」**

発表希望

(メンバー：高橋さん、長瀬さん、南さん、当山さん)

- ・山形も感染者増。なぜ感染者が広がるか勉強会開催。子どもから高齢者まで。ルールの確認。公民館をという拠点を核として生活支援機能集約。世帯当たり必要な方には5万円づつ。3自治会を一緒に活動サポート5万円づつ。隣組単位、校区の役割での対策会議。7、8割は地域活動の継続が可能だった。住民自ら対策を考え実践。それをさらに支援。伝えたい人に伝える、伝わっているか。
- ・一斉休校時は大変だったが、経験も重ねて一律休止や自粛だけではなくだろ。行政が全体でどうか考えるが、地域に根差した課題がある。公民館には役割がありそう。学び合いを。
- ・若狭地域一帯で活動している。児童館も利用制限あった。閉館中でも必要な子には地域の子も達の受け入れもあった。家での充実した遊びの提供をするため広報工夫。母子家庭、父子家庭、中学生の居場所も重要では。児童館は小学生までを優先した。公民館とも協力体制で。
- ・公民館、コロナ禍での学び合いとは。住民同士の話し合いがベースでは。協議

**テーマ「コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繁多川公民館のあり方をみんなと考える」**

発表希望

(メンバー：平中、高安さん、金城さん、玉城さん)

- ・繁多川の出身。区域として広いと考えている。高齢者が多く、情報支援などのケアが必要。今回のコロナ禍で学んだことを活かす必要。特に人が集まれない時に弱者に届け方。ITの活用との鍵、しくみをつくる。困りごとをキャッチする。
- ・南さんには授業で看護学生に繁多川の活動を紹介している。毎回、レベルアップしている。学生には問題×問題=すぐりむん方式を身に着けるようになってほしい。出来ない状態から出来ることを生み出す。
- ・繁多川自治会地域連携を図っている。人と触れ合うとまどいがある。自治会として何が正解がみえない状態にある。自治会の加入率が低い。コロナ禍で行事が中止になっている。昨年の経験を活かしていく。ちょっと一歩でも。ICTの活用
- ・すぐりむん化がさらに進んでいくと良い。

**テーマ「コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繁多川公民館のあり方を住民と考える」**

発表希望

(メンバー：西平博人さん、佐藤学さん、上里はるかさん、比嘉美矢子さん、村上英己さん)

- コロナ禍においての繁多川地域の自治会の対応 (西平さん)
- ・自治会は高齢者が多く、対面での取り組みが多いので、なかなか活動がしづらい。→つながり方を考える必要があると感じている
- 実際には、Facebookやライブ配信などを取り組んだ
- ・対面での取り組みの必要性も感じている
- 繁多川公民館は、他の公民館には見られない取り組みをしている。全国の多くの公民館が「コロナが終わるまで待てよう」という待ちのような状態で、「もしコロナにかかったらどうするの」という、自粛ムードのなかで、公民館は不要不急であるという意識もあって、なかなか繁多川のような、前のめりの新しいことはなかなかできていない。(村上)
- 大学に学生が来られない状況。オンラインでの大人数の学びのメリットもあるが、会って対面しての学びに価値を感じることが多い。(佐藤さん)
- まだ繁多川公民館で取り組みが難しい(上里さん)

2021.5.23 電話 9

 **金城 芳秀 先生**
沖縄県立看護大学 教授

- ▼ データに基づいた活動
- ▼ 共有 / 参加型
- ▼ 加視化 (内題 × 内題)

南 信乃介館長 (繁多川公民館) との出会い

遠脱

ポジティブ・デビアン・アプローチ

- 他と同じような問題や困難を抱えていて、他より資源を多く持っているわけではないが、「他とは違った行動」をとることで、他よりも上手に問題を解決している優れた人がいる、仕組みがあると想定できないだろうか。

ポジデビ (PD) { positive deviant 解決する人
positive deviance 解決の行為

神馬征峰、日本健康教育学会誌 21(3): 253-261, 2013.

本人が気づいて
なっている

すぐりむん
認める

共有する

よりよい活用へ

『ナッジ』

活動的になれないとき
活動的になれるナッジ

(10人ではできなくても
3人ならできるとき)

3密ならんよう

すぐりむん
何か新しいこと
生みだしている

2021.5.23 電話 10

教育研究者として

広く*を
対象にし
人々の生活者としての
存在形態に即して
健康現象をとらえる

沖縄県立看護大学
保健看護の概念

よりよい定義が
できたとき
いままでのすべてを
脱ぎ捨てたような
空間へ出る (草壁煥太)

*個人、集団 (家族、学校、地域、国) など

生活者として

五事を正す 中江藤樹*の教え

- ふだんの生活やまわりの人々とのまじわり
- ✓ なごやかな顔つきをする
- ✓ 思いやりのあることばで話しかける
- ✓ 澄んだ目でものごとを見つめる
- ✓ 耳を傾けて人の話を聴く
- ✓ まごころをこめて相手のことを思う

* 江戸時代初期の陽明学派の祖、近江聖人と称される



久場 祐介 さん

那覇市教育委員会生涯学習課

公民館の役割

つながり → (みえにいいじ
ひらがらしくみづくり)

弱いつながり → 情報の伝達強い
と 弱ければ強いほど

平時 から 誰が つながっていて、いないのかも
つかむ

ESD 持続可能な社会のための教育

SDGs

学びの基盤

つながり

公民館

2館
パイロットとして

行政内での共有も

2021.5.23 電話 11

緊急事態宣言

公民館

閉める

開ける

- 場の活用
- 情報の出しえ

南さん

- ✓ 止めてはいけない学び
- ✓ 今だからこそやるべきに
- ✓ 完全に止めたことない
- ✓ 日々の習慣にいかにおとしこむか

公民館の機能

- ✓ 弱いつながりをつくる
- ✓ まなびあいを誘発

つながりは
しがりやになる

小さく強いコミュニティ
同質性高く
居心地よさが入りこむ

宮城 潤 さん

直営でもできることしかやっていない
指定管理だから、NPOだから
できるわけではない

公民館は 場をひらく
異なるコミュニティと
つながりやすい 価値を
高める

評価し、再定義し、
市とも合意を

公民館

- 問題をとらえるアンテナ
- 問題をとらえている人も捉える



公民館の次のバージョンを

弱いつながりをつくり、誘発する、など
評価し、再定義し、市とも合意する

つながり

- ✓ 地域型でサポートしている人はつながっている

改めて、
誰がどのように
見ていたのか、

- ✓ 民生委員など ある程度
公的な人もつながっている

つながって
いないところが
うかびあがってくる

- ✓ 広域・テーマ型のところが
ほぼつながっていない

まだまだ、つながって
いないところはある

わかったつもりにならない

ゆるやかな
弱いつながり

生活圏の中での
つながり

バランスを
とること大事

- 公民館が社会教育施設としての
位置づけも学び、更新していく。
- 今ないものを生みだしていく
はみだしえ
- 今、生まれようとしているかも

2021.5.23 電話 12

<サブセッション記録>

アフターコロナの 繁多川公民館を考える 地域円卓会議

サブセッション 記録スライド

1

**テーマ「コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繁多川公民館のあり方をみんなと考える」** 発表希望

(メンバー：佐久本さん、大城さん、ひとつやなぎさん、比翼)

- 自己管理専門の立場から
- 心身のコントロールを持っているコロナでも影響は無い。
- 地域の関わりとしてリモートでどうように他の人と繋げていけるかが難しい
- 繁多川公民館の活動は心配ない。今の活動を継続していけば良い。
(ネガティブ発言がない、大きなことを語らないのが良い)
- 自分の地域に比べ、繁多川公民館の活動は活発で羨ましい。
- お便り、電話、FAX、テレビ(デジタル放送)での発信を続けて欲しい。
- コロナ禍での個人の取り組みとして24時間のスケジュール(例)を作って行動すると良い。

2

3

**テーマ「コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繁多川公民館のあり方をみんなと考える」** 発表希望

(メンバー：久場さん、波平さん、小栗さん、濱川さん)

- シェアマーケットキャラバン
- 包括・福祉作業所・NPOロービジョン・児童館・老人福祉センター・公民館など居場所を提供している方へ聞き取り作業をしている。対象者でやっていること困っていることは違う。知らないことが多い事に気づいた。困ったことが繋がる機会になる。ジャンルを超えた繋がり。発信が必要。
- 公民館は高齢者から若者まで集いやすい場所。コロナの影響で老人センターが閉館。公民館が中心。高齢者は億劫がる。高齢者の交流を促す「スマホ講座」を予定。勉強チャレンジ!
- LINE含めた繋がりがもっと必要
- 課題の解決は「繋がり」。平時の繋がりが大切
- 何もなくても利用、行くことができたらいいな。

4

5

**テーマ「コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繁多川公民館のあり方を住民と考える」** 発表希望

(メンバー：西平博人さん、佐藤孝さん、上里はるかさん、比嘉美矢子さん、村上英己さん)

- コロナ禍においての繁多川地域の自治会の対応(西平さん)
- 自治会では高齢者が多く、対面での取り組みが多いので、なかなか活動がしづらい。→つながり方を考える必要があと感じている
→実際には、Facebookやライブ配信などを取り組んだ
- 対面での取り組みの必要性も感じている
- 繁多川公民館は、他の公民館には見られない取り組みをしている。全国の多くの公民館が「コロナが終わるまで待てよう」という待ちのような状態で、「もしコロナにかかったらどうするの」という、自粛ムードのなかで、公民館は不要不急であるという意識もあって、なかなか繁多川のような、前のめりの新しいことはなかなかできていない。(村上)
- 大学に学生が来られない状況。オンラインでの大人数の学びのメリットもあるが、会って対面しての学びに価値を感じる人が多い。(佐藤さん)
- また繁多川公民館で取り組みが難しい(上里さん)

6

7

**テーマ「コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繁多川公民館のあり方をみんなと考える」** 発表希望

(メンバー：平中、高安さん、金城さん、玉城さん)

- ・繁多川の出身。区域として広いと考えている。高齢者が多く、情報支援などのケアが必要。今回のコロナ禍で学んだことを活かす必要あり。特に人が集まらない時に弱者に届け方を考えていくことが必要。ITの活用の鍵、しくみをつくる。困りごとをキャッチする。
- ・南さんには授業で看護学生に繁多川の活動を紹介している。毎回、レベルアップしている。学生には問題×問題=すぐりむん方式を身に着けるようになってほしい。出来ない状態から出来ることを生み出す。
- ・繁多川自治会地域連携を図っている。人と触れ合うとまどいがある。自治会として何が正解がみえない状態にある。自治会の加入率が低い。コロナ禍で行事が中止になっている。昨年の経験を活かしていく。ちょっと一歩でも。ICTの利活用
- ・すぐりむん化がさらに進んでいくと良い。

1

2

**テーマ「コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繁多川公民館のあり方をみんなと考える」** 発表希望

(メンバー：高橋さん、長瀬さん、南さん、当山さん)

- ・山形も感染者増。なぜ感染者が広がるか勉強会開催。子どもから高齢者まで。ルールの確認。公民館をという拠点を核として生活支援機能集約。世帯当たり必要な方には5万円づつ。3自治会を一緒に活動サポート5万円づつ。隣組単位、校区の役割での対策会議。7、8割は地域活動の継続が可能だった。住民自ら対策を考え実践、それをさらに支援。伝えたい人に伝える、伝わっているか。
- ・一斉休校時は大変だったが、経験も重ねて一律休止や自粛だけではなく、行政が全体でどうかと考えるが、地域に根差した課題がある。公民館には役割がありそう。学び合いを。
- ・若狭地域一体で活動している。児童館も利用制限あった。閉館中でも必要な子には地域の子どもの受け入れもあった。家での充実した遊びの提供をするため広報工夫。母子家庭、父子家庭、中学生の居場所も重要では。児童館は小学生までを優先した。公民館とも協力体制で。
- ・公民館、コロナ禍での学び合いとは。住民同士の話し合いがベースでは。協議と実行。それが必要

3

4

**テーマ「コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繁多川公民館のあり方をみんなと考える」** 発表希望

(メンバー：奥志さん・横山さん・山崎)

繁多川公民館に期待すること

- ・コミュニティのすごさを感じる。繁多川公民館がとても大きな役割を持っているが、学校は地域のコミュニティの核になるはずなので、学校との関わりを、行事だけでなくつながっていかれることを期待したい。学校の力が弱い。
- ・ジュニアボランティアの子が少なくなっている気がする。子ども達も地域に参加するための仲介役を公民館が担えると思う。
- ・内地では、大人の世界と子どもの世界の区切りがあると感じたが、沖縄は曖昧な感じがする。うまく説明できないが、メリハリがある所が、沖縄にはない感じがした。その様な価値観の気づきや学びも期待したい。
- ・社会教育は新しい価値観を更新する。それをぜひ地域に広げていくことを期待したい。学校の先生も価値観が変わらない。そこを、公民館が価値観の更新に役立ってくれたら。(教育委員会の問題はあれけど、そこまでいってほしいよね～!)

5

6

**テーマ「コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繁多川公民館のあり方を住民と考える」** 発表希望

6グループ(メンバー：玉井、宮城、橋爪、越島)

- ・屋外でできること(例：グラントゴルフ)以外で、何か取り組みできることはないか?
→ベタンクはどうか
- ・小さなつながり(地域の中の小さなコミュニティ)を作っていくことっていいな。
→屋内で難しいなら、屋外など、関わりやすいコンテンツがあれば良い
- ・休館するだけでなく、新たな取り組みをしたことが、今後につながると思う。
- ・皆さんの声を聞いて実現させたのが良かったと思う。
- ・オンライン開催などチャレンジしている

7

8

テーマ「コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繁多川公民館のあり方を住民と考える」

発表希望

(メンバー：洋子、石橋、津波古、新里、宇久)

- ・コロナ禍において、家から出られない子供たち、親子。エネルギーがあっても、いいところを伸ばしてあげる機会がない。一方、親も子供を遊ばせる場所がなくて困っている。親の人手はありそうなので、例えばオセロ大会や科学実験教室などを、公民館が中心になってくれるとお手伝いできそう。むしろ、ピフォーコロナよりも発展できるのではないかな。
- ・コロナ禍だからこそ、人とのつながりが大切。
- ・地域の公民館とこいのぼりの掲揚式。室内に集めるのが難しい。人が集まることが難しい。
- ・誰とも一日話さない日があるとおっしやる利用者さんがいる。できるだけいろんな人に声をかけるようにした。
- ・小さなつながりを増やしていく。
- ・緊急事態宣言が出たとしても、感染対策をしながら継続できる活動と、さらに手厚く感染対策を手厚くして継続できる活動、本当に中止しなければいけない活動を区別していける時期に入ったのでは。

8

9

テーマ「コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繁多川公民館のあり方を住民と考える」

発表希望

(メンバー：洋子、石橋、津波古、新里、宇久)ー2

- ・消毒・体温測定のを機会をきちんと設けるなど。

8

10

テーマ「コロナ禍のような地域の危機にも対応できる
繁多川公民館のあり方を住民と考える」

発表希望

(メンバー：知念・藤澤・比嘉・由利)

- ・若狭と繁多川の違いが面白い。何をしたらいいか悩む、考える、共通しているだろう課題を共有できてよかった(知)。
- ・デイサービスで子ども食堂、引きこもり>筋力が衰える、廃用。コミュニケーションの不足やリズムが狂うなどの問題を感じる(藤)。
- ・長期休館で来館減っている中で、活動していることがすごい。北谷よりも活動している印象。繁多川では学童が連携している(比)。
- ・デイサービスで感染者は出ていない。緊急事態宣言でも継続予定。自主的に休む人は少ない。活動内容はカラオケは休止するなど変更している。生活リズムが整うだけでもメリットがある(藤)。
- ・大学では半分オンライン、半分授業。去年入学したので、知り合いが少ない。ちょっとしたことで情報交換することができないのがつらい。公民館などの拠点で、学生同士がつながることができたら嬉しい。(比)
- ・公民館は休館になる可能性があるが、事前に状況を想定して、もし休館してもできることや継続したいことを共有している(由)

10

11